

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜山中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	さいたま市学習状況調査の結果から、全体的には、国語・数学ともに基礎的・基本的な「知識・技能」の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから、個別に必要な支援を講じていく必要がある。スタディサプリやミライシード等のICT活用によって、個別最適な学びを充実させるとともに、休業明けテスト等を活用したスマールステップの取組を充実させることで、基礎学力向上を目指していく。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査の結果から、国語は「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の領域において、数学は「図形」や「関数」の領域において、「思考・判断・表現」の定着に課題がみられた。授業のUD化を、教科を超えて全校で丁寧に実践するとともに、全市平均よりも活用率の高いタブレットPCをさらに有効活用し、「学び合い」の場や「振り返り」の場を充実させることで、校内平均正答率の向上を目指していく。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査の結果から、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」や「家で自分で計画を立て勉強をしていますか」の質問項目において、3年生になると高校受験など進路を意識することから、2年生のときよりも肯定的な回答の割合が高かった。3年間を通して進路指導・キャリア教育を計画的・継続的に充実させることで、夢や希望をもち、目的意識をもって主体的に学ぶ態度の育成を目指していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	・校内キャリアアップテスト3級合格90%以上、1級合格60%以上 ・全国学力・学習状況調査における「知識・技能」にかかる校内平均正答率2pt向上	⇒ ・放課後学習会の実施 ・スタディサプリ、ドリルパークの活用推進 ・休業明け課題テストの実施
思考・判断・表現	・全国学力・学習状況調査における「思考・判断・表現」にかかる校内平均正答率2pt向上	⇒ ・UDの視点(焦点化、構造化、情報提示の工夫、学び合い)を取り入れた授業の推進 ・タブレット端末活用で自他の意見を発信・共有する「学び合い」を全教科で実施 ・授業終末の「振り返りの時間」実施
主体的に学習に取り組む態度	・1P学習ノート、スタサブ等デジタル学習課題への提出率・アクセス率3%向上 ・放課後学習ルーム利用率20%達成	⇒ ・1P学習ノート(毎日点検)による主体的な家庭学習時間の確保 ・校内キャリアアップテスト(5教科、各1～3級)の実施

## 年度末評価

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「知識・技能」の平均正答率は、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果と比較して、中1が+21pt、+5pt、中2が+8pt、+7ptであった。スタディサプリやミライシード等のICT活用や、休業明け課題テストの実施が定着しており、今後も継続していく。	A
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「思考・判断・表現」の平均正答率は、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果と比較して、中1が+22pt、-10pt、中2が-7pt、+2ptであった。授業や環境のUD化、タブレット端末活用による「学び合い」、授業終末の「振り返り」実施が定着しており、今後も継続していく。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5さいたま市学習状況調査の「家で自分で計画を立て勉強をしていますか」の肯定的回答が全校で54%であり、1P学習ノートの提出状況などからも放課後における学習習慣の定着に課題がみられる。	C

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

## さいたま市学習状況調査

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	「知識・技能」において、R4年度さいたま市学習状況調査より国語+21pt、数学+5ptであった。「思考・判断・表現」において、R4年度さいたま市学習状況調査より国語+22pt、数学-10ptであった。国語は全ての領域において1~35ptの改善、数学は「数と式」の領域において7ptの改善がみられた。また数学は「図形」や「関数」の領域に課題がみられるが、無回答率は高くないため、主体的に取り組む態度を大切にしながら、基礎基本の定着を目指した授業改善に取り組んでいく。
中2	「知識・技能」において、R4年度調査より国語+8pt、数学+7ptであった。「思考・判断・表現」において、R4年度調査より国語-7pt、数学+2ptであった。国語は「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」の領域において1~6ptの改善、数学は全ての領域において1~9ptの改善がみられた。また国語は「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の領域に課題がみられるが、無回答率は高くないため、主体的に取り組む態度を大切にしながら、基礎基本の定着を目指した授業改善に取り組んでいく。
中3	「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は91%であり、2年生のときよりも3ポイント以上高い結果であった。また「家で自分で計画を立て勉強をしていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が、2年生のときよりも8ポイント以上高い結果であった。主体的に学習に取り組む様子がみられるようになった。

② 学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+0pt、数学-8ptであった。国語は「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国を上回ったが、特に古典に課題が見られた。数学と英語は、全国と比較し、どの領域にも課題が見られた。
思考・判断・表現	R5年度の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+3pt、数学-4ptであった。また国語の「書くこと」、数学の「データの活用」の記述式の無回答率が高かった。英語は「聞くこと」「書くこと」などに課題が見られた。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度の「生徒質問紙」回答では、タブレットPCを活用した自主学習や意見交流等に意欲的な回答が多くあった。また話し合い活動など学び合いの活動に積極的な回答も多く見られた。

## 調査結果分析(7~8月)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	・さいたま市学習状況調査における「知識・技能」にかかる校内平均正答率2pt向上	⇒ ・放課後学習会の実施 ・スタディサプリ、ドリルパークの活用推進 ・休業明け課題テスト(振り返りを含む)の実施
思考・判断・表現	・さいたま市学習状況調査における「思考・判断・表現」にかかる校内平均正答率2pt向上	⇒ ・UDの視点(焦点化、構造化、情報提示の工夫、学び合い)を取り入れた授業の充実 ・タブレット端末活用で自他の意見を発信・共有する「学び合い」実施の全教科での充実 ・授業終末の「振り返りの時間」実施
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 变更なし